

# グラントウ応援団通信

第 26 号

平成 22 年 5 月 22 日

事務局

0856・31・1860

## 室町文化フェスティバル

いわみ芸術劇場館長 村川 修

五月四日と五日の二日間におたつて「第三回室町文化フェスティバル」が開催され、多くの皆さんに文化的行事など多くの催しを楽しんでいただきました。

この行事は、地域の文化団体やボランティア会員など多くの皆様方のご協力で行われており、心から感謝申し上げます。

室町文化フェスティバルは、○「ゴールデンウィークの「こどもの日」を意義あるものとするこ

や  
○「室町時代」に光り輝いた益田地域で、今に伝わる歴史・文化遺産や伝統芸能などの多くの文化資源を地域の魅力として認識し、

子供の世代まで幅広い多くの人が楽しみ親しんで将来にわたつて守り発展させていくためのものなどに思いを込めて実施されています。

歴史的に受け継がれてきたものや古き時代をイメージして新たな芸術として生み出されたもの、暮らしや自然の美しさを表したものの、食文化を知り、今の食生活への伝承を考えるものなど先人の心と知恵と想いを次の世代に受け継いでいく場として、グラントウは最適の施設です。

ホールや美術館など最高の設備はもちろん、水盤のある中庭



新しくなった制服姿のアテンダ

というみんなが集い遊ぶことのできる場まであります。

幼い頃から神楽や和太鼓などのリズムで育つ子供たちは、しっかりとその伝統芸能を継承していけると思います。

継承者の確保が困難になりつつある伝統芸能もありますが、地域の文化がその地域の魅力となり、地域の子供を育てることをあらためて認識し、その地域で守っていくことを明確に認定して、全員で守り育てることによって地域の文化力を高めることが求められています。

もちろん、伝統芸能はみんなが楽しみながら伝えていくべきで



あり、時代とともに変化しながらも原点はしっかりと守っていきたいものです。



## 最近の映画

映画ボランティア

大谷 一樹

先日、今話題になってる3D

映画「アバター」を萩の映画館に見に行きました。古くから地域に支えられている映画館で、施設の老朽化も進んでいることから「音響は大丈夫かな？」といらぬ心配をして見たもののいざ映画が始まってみるとそんなことなど忘れて、迫力ある映像と音響に圧倒されていました。

3D映画というと昔の赤と青のメガネのイメージしかない世代の私でしたが、今のメガネは、なかなかシャレっていて、これなら普段かけていても町を歩けるかも（実際には歩きませんが）、というしろもので時代と技術力の変遷に感心しきりでした。肝心の映画の内容はというと、何か遊園地のアトラクションに長時間乗り続けたような疲労感は残りまりましたが、ストーリーなどはあまり印象に残らなかったというのが

正直なところでした。

映画だけでなく、最近ではテレビも3D化が進んでいるようですね。「趣味の園芸」などが3D化したらご年配の方は結構喜ばれる気もします（笑）

内容よりインパクトのある見た目や時流も興行的に必要なのは分かるのですが、映画が本当に好きな私とすれば、緻密で迫力のあるCGを使った映画より、スタントマンが体を張ったアクションの方が、緊迫感が伝わって来るような気がしますし、行間を読ませるような、見る人の想像力が入る余裕のある映画もそれぞれの解釈ができて面白いような気がするのですが、最近の映画はきっちりとした世界観と映像、考え方までが強調されているようなものが増えてきているように感じます。

昔見た印象に残り語り継がれる映画はこの先出てくるのでしょうか？地味でも心に長く残るような良作な映画を、これからはグラントワで見続けたいですし、多くの方に見ていただきたいと思う今日この頃です。

## ○5月4日・5日の室町フェスタ会場風景



【あ】と【が】き  
本情報紙に掲載頂く原稿を募集しています。コンサートや美術館へ入られたご感想などお気軽にグラントワの事務室にお寄せいただければ幸いです。大変喜びます。お待ちしております。

情報ボランティア